

「44th ミーティングに関する報告書」(2005.6.4)

戦略研44th ミーティング 議事録

「少子化の問題点とはなにか? 2」

2004年6月4日(土) 14:00~18:00

東京・竹橋

参加者(13名)

経営戦略コンサルタント、SE、会社員、システムコンサル会社代表、人材採用コンサルタント、  
公認会計士、税理士、行政書士、司法書士他

企画 2005戦略研少子化問題委員会

趣旨

1. 4/2戦略研ブレストによるキーワードのグループ化ディスカッション  
・・・キーワード抽出のためのブレストの補足も
2. グループ化については、客観的な結論を引き出せるもの、  
社会への訴求力のあるものなどを基準に
3. そして、グループ化したものに優先順位を付与

概要

- 1) 会の説明
- 2) 参加者による近況報告
- 3) ブレスト、グループ化ディスカッション  
「少子化の問題点とはなにか? 2」

内容

- 1) 会の説明
  - ・ 会の立上げから現在までの沿革、またNPO法人など現在の各プロジェクトについて説明
- 2) 参加者による近況報告
  - ・ 富士通コンサル事業部で経営戦略立案
  - ・ 政治研、来月の都議選、板橋区の状況  
候補者の状況がわかると面白くなってくる
  - ・ 最近遊んでない。最近飛び込み営業してない
  - ・ 忙しいのに新卒採用に駆り出されてる  
最近の新人は仕事やる気なさそう
  - ・ モチベーションマネジメントの会社、新卒、中途採用ビジネス  
最近はフィロソフィーの絵本を作成

- ・今は神戸の客の仕事
- ・個人事業を立ち上げた、構想・企画練ってる
- ・M&Aがメインの仕事  
仕事のほとんどが紹介、ツテ、人脈が重要
- ・コンサルティングの契約をとろうとしている  
官公庁はコンサル入ると次の契約とれない
- ・会社が古い体質。PR を親会社と一緒に検討  
事業戦略を検討中  
少子化もビジネスのキーワードとして考えたい
- ・近々子ども、生まれる  
最近証券会社を退職して現職（マーケットリサーチ）  
転職契機に参加
- ・店舗用建材の営業。イケイケドンドンの社風  
ディベートの異業種交流会を運営  
少子化もテーマでディベートしており、それがトリガーで参加

### 3) ブレスト、グループ化ディス「少子化の問題点とはなにか？」

配布資料「4 / 2 戦略研ブレストキーワード集、他」

#### 概要

1. 配布資料の説明。キーワードの補充、ブレスト
2. キーワードのグループ化ディス

- ・少子化の問題点、キーワード抽出

水窪：毎年 100 人ずつ減り 30 年後に 0 になる（実際はならないと思うが）

町がなくなることはよくないこと？

⇒住みやすいところにシフトしていけば

シベリアは、人工（計画）的に作った町

⇒住みにくいが、住まざるをえない

岐阜県ツケチ町：若い人がどんどんかえってくる、自分の町を自分で盛り上げる意識あり

その土地で入籍したカップルには 10 万円

気候の問題大きい

沖縄：I ターン多い、が、ガラ悪くニートも多い

将来への不安、収入が見えないと子ども作らない

子ども年金のため⇒年金制度なくせば  
年金制度があるから子ども作らない

現在は子どもはペットとして作る

女性の視点は？

政府の施策に甘えているから、子ども作らない  
個人の責任を社会の責任にしている⇒ひとつの原因

今は年金のために子ども持つという考えは若い世代には少ない

少子化、騒ぎすぎ、義務化はおかしい

結婚のハードル高い

個人として、問題認識はある、年齢や社会的な要請で、作らなければならないと思っている

人材は外国からでもよいのでは

できちゃった婚だと考えないで作っちゃう

結婚してからだと、難しく考えてしまう、覚悟、勇気がいる

資産の流動化  
財源が確保できれば子どもいない

30年後の国際情勢を見据える必要あり

公教育、学校、税金払ってるのに、役にたっていない

GDP：一人当たりの利益が上がれば、GDP増やす必要ない

マーケットは縮小するか？

外国人多く入ってきている、ビジネスも展開している

外国人を受け入れられる雰囲気在国内にできてきている

⇒マーケット縮小も歯止めがかかるのでは  
地域差はできると思うが

人口ボーナス：増加率高かったとき

世代間の意識格差あり

若い世代は明らかに損だが

少子高齢化対策の 5 万、10 万はハシタ金

昔の人は子ども作った、そして金かけてる  
今はしてないので、どっちもどっちなのでは

男女共同参画

女性の敵は男と子ども、好きなことできない：タジマヨウコ

子育てと仕事の両立があるべきモデルなのか、そういう論調がつくられている

ここにばかり税金つぎこんでるが  
税金つぎこんで効果があがっているか不明

子育て保険、省庁の権益のために考えているような

男の子育て休暇：出世に影響、無理やりとらせている

少子化問題において、男尊女卑が考慮されているか

⇒傾向として少なくなっているが

男、女を区別して考える必要ないのでは

働かなくてもいい世界になればよいのでは

ドバイ：国民働かない、国王から恵まれる

働く女性の離婚：結婚した人の子ども作る気ない

⇒子どもを想定して結婚相手を選ばない

本能的な意識の変化、この人の子どもを作りたいと思う意識の醸成

初期自我、中期自我、後期自我、成熟自我。。。

日本人は中期自我で止まる、西洋は後期、自立意識強い  
とはいえ成熟自我の人もある：この層を増やす

ナショナリズム：最近高まっている（サッカー）

20代：日本好き、変えて行きたい意識高い、結婚願望もある  
一方、ニートも多く、若い世代の意識格差も大きい

育児アルバイト、主婦の小遣い稼ぎにもなってる

環境変化は不安、ストレス：昔と今も異なるし、単純比較はできない

マズローの欲求5段階説、低次元な欲求が満たされていないのか  
それが子ども作らない原因か、  
自己実現のために子ども作るか

今から子ども急に増やしても、第3の団塊世代となり、60年後同様の問題がおこる

国家制度として対策するかは判断できない

子作りそのものをキャリアにする、子育てしたら老後慰労する

妾、ハーレム（一夫多妻）、社会の仕組みとして存在している（していた）

子どもはどうやたって減る

⇒減ることを前提にした施策が必要では

今の制度が破綻すると、困るのは役人

少子化を問題としている社会が問題

・キーワードのカテゴライズ、因果関係

【国・海外】

国家財政負担 ⇒ 労働力の減少 ⇒ 女性を働かさせる  
⇒ 年金 ⇒ 高齢者の扱い  
⇒ 教育（社会）インフラの維持

国際競争力低下 ⇒ 収入減 ⇒ 貧困  
⇒ 円安 ⇒ 輸入コスト高 ⇒ インフレ ⇒ 食糧問題 ⇒ 農業  
⇒ 国内企業活動への影響 ⇒ 外資の攻勢 ⇒ 人材流出  
⇒ 技能継承の断絶 ⇒ 移民 ⇒ 技能流出

社会システムの崩壊 ⇒ （子どもを核とした）地域コミュニティの崩壊

### 【家庭・子育て】

子育ての負担が大きい ⇒ 家計の逼迫  
⇒ 物価高 ⇒ 収入が少ない  
⇒ 企業の対応  
⇒ 計算高い（まじめに試算したら誰も作らない）、ラクしたい

家族とは ⇒ 子どもの位置づけ ⇒ 子どもを作りたくない理由  
⇒ 子育てが大変というイメージ（プラスのイメージがない）⇒ 負担、障害  
⇒ 子どもを持つことの満足感  
⇒ 食生活（健康問題） ⇒ 小児医療  
⇒ 専業主婦の方が悩みが大きい  
⇒ 子どもは不要（人生の保障にならない）  
⇔ ペットで代替、嗜好品  
⇒ 自分の分身  
⇒ 昔と家族感が変わった

自己実現と両立できない ⇒

### 【女性】

男性社会の弊害  
男のほうが子ども  
低所得ほど女性は結婚願望がある

女性 ⇒ 労働力としての期待 ⇒ 子育てとビジネスの両立

少子化を問題視し、少子化対策の存在が必要な集団がいる、厚生労働省の既得権益

少子化の流れを是と考える ⇒ 少子化のメリット ⇒ 食料、エネルギー  
⇒ 財政負担が軽減  
⇒ 少子化のデメリット

以上。